

平成 21 年 1 月 28 日

各 位

会 社 名 アクモス株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 飯島秀幸
(JASDAQ・コード 6888)
問 合 せ 先 執行役員 経営情報管理部長 中川智章
電 話 番 号 03-3239-2377

平成 21 年 6 月期第 2 四半期累計期間（連結・個別）業績予想との差異に関するお知らせ

平成 21 年 6 月期第 2 四半期累計期間（平成 20 年 7 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日）の業績と、平成 20 年 8 月 8 日付の当社「平成 20 年 6 月期決算短信（連結）」において発表いたしました業績予想との差異について、下記のとおりお知らせいたします。

1. 平成 21 年 6 月期第 2 四半期 連結業績予想数値の修正

(1) 第 2 四半期連結累計期間（平成 20 年 7 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日）（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回予想（A）	2, 800	△140	△150	△100
今回修正（B）	2, 879	△102	△112	△147
増減額（B－A）	79	38	38	△47
増減率（%）	2.8%	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 6 月期第 2 四半期)	3, 797	27	25	△57

(2) 修正理由

売上高については、概ね予測通りの推移となり、当初予想比 79 百万円増の 2,879 百万円（当初予想比 2.8% 増）となる見込みであります。売上高の増加により、第 2 四半期連結累計期間で見込んでいた損失額は縮小し、営業損失は 102 百万円（当初予想は営業損失 140 百万円）、経常損失は 112 百万円（当初予想は経常損失 150 百万円）となる見込みとなりました。

また、特別損失が 14 百万円発生する見込みとなりました。主な特別損失は、株式市場の低迷から時価が下落した当社保有の投資有価証券について実施する強制評価減により投資有価証券評価損 8 百万円、子会社において発生した固定資産除却損 3 百万円、事務所の移転に伴う損失 1 百万円等でありました。この結果、法人税等を差し引いた当四半期純損失は 147 百万円となる見込みであります。

(3) 通期（平成 20 年 7 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日）

通期（連結）の業績予想につきましては、第 2 四半期連結累計期間で発生した年初予想との差異を踏まえ、また、わが国においても顕在化しつつある経済環境の悪化が、当社グループの業績にどのような影響を与えるのかについて現在精査を進めております。今後業績予想の変更であると判断した場合に荷は、改めてご報告させていただきます。

2. 平成 21 年 6 月期第 2 四半期 個別業績予想の修正等

(1) 第 2 四半期累計期間 (平成 20 年 7 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回予想 (A)	1, 2 0 0	△ 1 5 0	△ 1 4 0	△ 8 0
今回修正 (B)	1, 1 6 0	△ 4 4	△ 2 2	△ 4 0
増減額 (B－A)	△ 4 0	1 0 6	1 1 8	4 0
増減率 (%)	△3.3%	－	－	－
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 6 月期第 2 四半期)	5 1	△ 4	3 1	3 1

(2) 修正理由

売上高は 1,160 百万円 (当初予想比 3.3%減、40 百万円の減少) になると見込んでおります。修正の主な理由は、新規事業のテクニカルリソース事業 (エンジニア派遣事業) において、I T エンジニアの需要が伸び悩み当初の計画を下回ったことによるものです。

当事業年度は、新規事業の立ち上げ年度ということもあり第 2 四半期累計期間は、営業損失、経常損失、四半期純損失を見込んでおりました。世界的な金融危機の影響が、わが国の輸出企業など製造業に拡大する中、管理部門経費の見直しを行い支出の抑制を図り、販売費及び一般管理費が予算を下回ったことから、営業損失は 44 百万円 (当初予想は 150 百万円の営業損失)、経常損失は 22 百万円 (当初予想は 140 百万円の経常損失) となる見込みであります。

このほか、保有する投資有価証券の株価が下落したため、当第 2 四半期末において強制評価減を適用して投資有価証券評価損 8 百万円を特別損失に計上する見込みであり、以上の結果、当四半期純損失は 40 百万円 (当初予想は 80 百万円の四半期純損失) を見込んでおります。

(3) 通期 (平成 20 年 7 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)

現時点では、通期の業績修正はしておりません。当社では、わが国においても顕在化しつつある世界同時不況の影響により当社がどのような影響を受けるのかについて、既存の受託案件の価格交渉や第 4 四半期以降の新規受託案件についてのお客様側の開発計画の見直し等の影響を想定しつつ調査をすすめております。

今後の調査の結果、通期の業績修正が必要な場合には改めてご報告させていただきます。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。

以 上